

庁議記録

日 時 令和4年11月17日（木）

11：15～11：35

場 所 テレビ会議室

【浦本副知事】

ただいまから庁議を開催します。それでは、早速議事に入ります。はじめに、協議事項として1件、「今冬の電力需給対策」について、経済部長から説明をお願いします。

【経済部長】

この冬の電力需給対策についてご説明申し上げます。スライド1をご覧ください。まず、この冬の電力需給見通しでございますが、国では、地域間連系線を活用した電力融通を考慮の上、エリアごと、または複数エリアの広域ブロックで需給バランスの評価を行っておりまして、それによると、この冬で需給見通しが最も厳しい1月では、東北・東京ブロックは予備率4.1%に対しまして、北海道は7.9%との見通しになっております。

これには、北海道から本州への電力融通が最大限折り込まれたものでございまして、本道につきましては、現時点で需給ひっ迫注意報に至る状況ではないと想定されてはおりますが、全国的に厳しい需給状況の中で、万が一、発電所の計画外停止などが重なりますと、本道の予備率が大きく低下する可能性がございます。厳寒期の電力需給ひっ迫は、道民の生命や安全を脅かす懸念がありますことから、本道におきましても、冬の電力需給対策を行う必要がございます。

次にスライド2をご覧ください。これまで、「冬の対策パッケージ」といたしまして、需給対策を取りまとめてきておりますが、今年度はエネルギーを取り巻く情勢変化や脱炭素の動きなどを踏まえ、節電とゼロカーボン北海道の取組を一体的に呼びかけることといたしまして、内容を見直しました。名称も「ほっかいどう 冬の節電・ゼロカーボンプログラム」としたいと考えております。

このプログラムの主な内容については、まず「1道における電力需給対策」といたしまして、無理のない範囲での節電の取組を呼びかけることといたします。具体的には、道民の皆様や企業の方々に対しまして、ホームページやSNS、啓発資材などによりまして普及啓発を行うほか、節電プログラムへの参加促進や製造業の省エネ設備の導入支援、北海道あったまろうキャンペーンなどゼロカーボン北海道の取組と連携した節電行動の促進、北海道地域電力需給連絡会などを通じた情報共有、間引き消灯やエレベーターの一部停止など道自らも節電に取り組むことといたします。

次に、「需給ひっ迫時の対応」でございます。これまで「警報」のみであったものが、本年度から新たに「準備情報」、「注意報」というものが設けられておりますので、対応を整理させていただきました。まず2日前に「需給ひっ迫準備情報」が発信された場合には、庁内に情報提供を行いまして、注意報・警報の発令に備えた準備を行っていただきます。1日前または当日に「需給ひっ迫注意報」や「警報」が発令された場合は、節電・停電対策本部の開催など速やかに情報共有いたしますとともに、市町村・関係団体や道民の皆様へ節電を呼びかけるほか、道自らも徹底した節電に取り組むことといたします。

以上、「ほっかいどう 冬の節電・ゼロカーボンプログラム（案）」について、ご説明いたしました。なお、このプログラムの概要版及び本編につきましては、別途皆さんに電子版にてお配りしております。各

部におかれましては、本プログラムに基づき、この冬の電力需給対策への協力をお願いいたします。以上でございます。

【浦本副知事】

この件に関して、何かご発言等がございますでしょうか。よろしいですか。それでは、この「ほっかいどう 冬の節電・ゼロカーボンプログラム」につきましては、案のとおり決定をいたしたいと思っております。次に報告事項として、3件でございます。はじめに「令和4年度北海道職員表彰」について、職員監から報告をお願いします。

【職員監】

総務部から「令和4年度北海道職員表彰」の結果について報告いたします。道では、これまで、北海道職員表彰規程に基づき、毎年度、成績顕著な職員を表彰しております。今年度は、各部局から44件の取組、366名の上申があり、審査の結果、最優秀賞は、2件決定させていただきました。1つ目は、経済部食産業振興課の「北海道ワインアカデミーの創設と発展」、2つ目は、日高振興局商工労働観光課の「ひだかの『食』を切り口とした地域魅力発信動画」の取組となりました。この2件の取組、7名の職員に対しまして、先月、表彰式を3年振りに開催し、知事から表彰状を授与していただき、受賞者から取組内容などを説明いただきました。

今年度は、最優秀賞2件、優秀賞15件を決定しておりますが、上申された中には、それ以外にも課題解決に向けた積極的な姿勢という面などで良い取組がありますことから、こうした取組を表彰するため、今年9月、新たに所属長表彰制度を設けました。所属長表彰は、職員表彰に上申しましたが、最優秀や優秀に選定されなかった職員のほか、部長や振興局長が表彰にふさわしいと認める職員を対象に、各部長等の裁量により、独自の基準で自由に選考することを可能としております。

今後は、職員の士気向上や職場の活性化をより一層図るため、成績顕著の表彰への積極的な上申や、所属長表彰の各部局での積極的な運用を行っていただきたいと考えております。こうした取組を通じまして、道庁全体で、職員の努力や取組を積極的に評価する組織文化の定着につなげてまいりたいと考えておりますので、ご協力をよろしくをお願いいたします。報告は以上でございます。

【浦本副知事】

次に報告の2番目でございます。「G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合」について、総合政策部長から報告をお願いします。

【総合政策部長】

「G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合」についてでございますが、この会合は、G7広島サミットに係る関係閣僚会合の一つであり、4月15日、16日に開催をされます。参加国は、G7の7カ国及びEUであり、各国の関係大臣ほか政府関係者が参加予定となっております。この大臣会合におきましては、気候、エネルギー、環境とそれぞれの分野について、G7が協力をして取り組む事項などをまとめた合意文書の発出を目指すこととなりますが、こうした場におきまして、ゼロカーボン北海道の取組をアピールすることは、非常に有意義だと考えてございます。

今月、国際局内に担当局長を配置するなど庁内体制の整備を行ったところであり、12月には実行委員会が設立される予定となっております。この会合を契機に北海道、札幌市、国が一丸となって、本道が目指

す「ゼロカーボン北海道」の実現を加速をしていきたいと考えておりました、本庁各部や振興局におかれましては、今後、大臣会合の開催にあわせ、ゼロカーボン北海道の機運醸成などについて積極的に取り組んでいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。以上でございます。

【浦本副知事】

次に報告の3つ目でございますが、「全国豊かな海づくり大会」につきまして、水産林務部次長からお願いいたします。

【水産林務部次長】

全国豊かな海づくり大会は、水産資源の保護と環境保全の大切さを広く国民の皆様へ訴え、つくり育てる漁業の推進を通じて、漁業の振興と発展を図ることを目的に、天皇・皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、毎年各県で開催されている国民的行事でありまして、北海道では、昭和60年第5回の湧別町、登栄床（とえとこ）漁港以来2回目の開催が決定いたしました。

スライドの2ですが、開催日・場所につきましては、大会の主な行事であります「式典行事、海上歓迎・放流行事」が来年、令和5年9月17日（日）に釧路管内厚岸町の厚岸漁港で開催されます。参加者は、約1,000名程度を予定しております、主な参加者として、北海道実行委員会会長であります知事、全国豊かな海づくり大会大会長であります衆議院議長をはじめ、農林水産大臣、環境大臣、道内選出国會議員、道議會議員のほか全国各県からの招待者などを想定しております。また、当日及び前日であります9月16日、17日には、関連行事として、パネルなどによる企画展示や物産品販売などを予定しております。

スライド3になりますが、大会に向けましては、実働を担う実施本部や行幸啓本部を設置する予定です。大会業務を円滑に運営するための実施本部は、先催県などの組織体制を参考に知事を本部長とし、総括部や式典行事部などの各部のほか接伴班や式典行事班など、業務ごとに各班を設置します。また、北海道大会におきましても、天皇・皇后両陛下に御臨席頂けることを期待し、万全の体制でお迎えできるように、本道における過去の行幸啓本部の組織体制に準拠し、行幸啓本部について、実施本部と同様に知事を本部長とし、釧路総合振興局を地方本部とし、本部及び地方本部には報道班など業務ごとに各班を設置します。

なお、実施本部、行幸啓本部ともに、来年4月までに設置を予定しており、設置にあたりましては、本庁各部や振興局などの職員の皆様にもご協力を頂きたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

【浦本副知事】

この全国豊かな海づくり大会につきましては、地元振興局の取組も共有しておきたいと思っております。釧路総合振興局長からお願いします。

【釧路総合振興局長】

釧路総合振興局の取組について、報告させていただきます。資料はございません。当振興局では、本大会の開催を契機として、管内沿海市町、漁協及び研究機関等と連携し、コンブ等の水産資源の育成と二酸化炭素吸収量の確保の両立など、ブルーカーボンに関する取組を推進していくため、本年9月に「釧路管内ブルーカーボン推進検討協議会」を設立いたしました。

管内では、人工林の約6割が成熟期を迎え、炭素吸収量の減少が予想されますことから、計画的な森林整備に加えまして、新たな吸収源としてのブルーカーボンの取り組みに期待しているところです。今後は、本協議会を通じて、地域ごとの概要プランの作成やシンポジウムの開催など地域の取り組みを推進するとともに、来年の大会では展示ブースを設け、管内のブルーカーボンの取組概要などを来場者に広くPRしたいと考えております。

また、昭和60年以来、38年ぶりの北海道大会となりますことから、地元振興局といたしましても全国各県からの招待者を迎えるべく、各関係機関などと連携しながら、大会の成功に向けて取り組んでまいります。以上でございます。

【浦本副知事】

報告事項は以上でございますが、ほかに何かご発言等ございますか。よろしいでしょうか。それでは最後に、知事からお願いいたします。

【鈴木知事】

はじめに「この冬の電力需給対策」についてであります。この冬の北海道は、電力の安定供給に必要な予備率を確保できる見通しとなっているものの、冬季は暖房や融雪などで多くの電力が使用される最大需要期であり、厳寒期に電力需給がひっ迫する、そういった事態になりますと、道民の皆様の生命や安全を脅かすことが懸念をされます。このことから、冬の需給対策は、大変重要なものになります。

各本部長におかれては、本日決定いたしましたプログラムに基づいて、無理のない範囲での節電について、道民の皆様や企業の方々にご協力を呼びかけますとともに、需給ひっ迫時に速やかに必要な対応を行い、万全の体制をとるようお願いをいたします。

次に、「令和4年度北海道職員表彰」についてです。最優秀賞であります経済部食産業振興課の「北海道ワインアカデミーの創設と発展」と日高振興局商工労働観光課の「ひだかの『食』を切り口とした地域魅力発信動画」の2件の取組に対しまして、先日、私からも直接表彰状を授与し、職員の皆さんから直接お話を伺ったところであります。いずれも、北海道の持つ魅力や可能性が伝わる素晴らしい取組であったと考えてます。

私が言うまでもなく、組織は人です。新たに創設をいたしました所属長表彰、こちらも含めて今後も職員表彰制度を積極的に活用し、職員の努力、取組を積極的に評価をして、組織の更なる活性化につなげていただきたいと思います。また、こういった職員の努力も道民の皆様に発信をしていくことも大切だと思いますので、そういった点についても皆さん配慮いただきたいと思います。

次に、「G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合」についてですけれども、この会合は、北海道が目指す「ゼロカーボン北海道」の実現に向けて、大きな弾みになるということで、期待をしているところであります。

本庁各部、振興局においては、道民の皆様の環境意識の醸成を図り、北海道の取組を国内外へ発信する好機であると考え、市町村等と連携をして、ゼロカーボン北海道の取組を積極的に進めてほしいと思っています。

最後に、「全国豊かな海づくり大会」です。この大会は、天皇・皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、毎年各県で開催されている国民的行事であります。北海道においては、昭和60年以来2回目の開催となります。

私自身、11月13日に兵庫の大会に出席をさせていただきまして、兵庫県知事から直接バトン、旗を受け取るという形で、バトンを受けてまいりました。

現在、開催地であります厚岸町などと連携をして、計画的に準備を進めているところでありますが、この大会は、全道でその意義を共有をして、機運の醸成をしていくことが重要です。本庁各部、振興局が連携をして、大会の成功に向けて取り組んでいただくようお願いいたします。

それと、それぞれ今、申し上げましたけれども、G7のお話、これは4月15日、16日です。そして、アドベンチャートラベル・ワールドサミットが9月11日から14日にありますし、全国豊かな海づくり大会が9月17日ということでもあります。ともに、気候変動といった観点、それから環境保全といった観点、自然を生かした旅行形態など、そういった意味では、非常に重要なそれぞれの行事やイベントでありますけれども、関連性があります。関係部局も、そういった意味では広範にわたりますし、各振興局も会場となる振興局以外についても、それぞれ魅力や課題というものを抱えていると思いますので、ぜひここはしっかりと効果的にそれぞれのイベント、大会などを連携させて、より北海道の素晴らしさ、そして取組を知っていただき、さらに北海道の発展に繋げていくという観点で取組を進めていただくようお願いいたします。大事なのは、準備、また明確な時期をとらえての効果的な発信、この点だと思しますので、私から皆さんをお願いをいたします。私からは以上です。

【浦本副知事】

本庁各部、そして各振興局は、只今の知事からの指示を踏まえ、対応いただきますようお願いをいたします。以上で庁議を終了いたします。